

最終号

伊興町自連
NEWS

今号でお休みをいただきます。ありがとうございました！

IKKOUHUA

イロハのいこう

第7号 2025年3月
伊興地区町会自治会連合会
(伊興町自連 Ikou Choujiren)

知ると分かる。すると変わる。



SDGs MODEL ADACHI

昭和25年生まれ、75歳。好きな言葉は「継続は力なり」。その言葉のとおり、町会役員は30年、趣味のゴルフも30年、カラオケも20年、スポーツ吹き矢(※)も10年続けている。さらに、消防団員としても30年活動した。昨年入団30年を機に退団したが、団員として長年活動してきた経験から、避難所運営会議(当紙裏面参照)も栗原北小学校の本部長として熱く取り組んでいる。例年、避難所運営訓練日は6月頃。伊興エリアで最も早い。

※的に向かって息を使って矢を放ち、得点を競うスポーツ

生まれ育った伊興が好きだ。地域のためになることを考え、30年前に役員になり、総務部長をはじめとする部長職や副会長を歴任。その間、機械関連の商社の営業職や独立開業するなど、多忙な仕事とも両立しながら町会役員を続けてきた。会長になって2年。伊興南町会は盆踊り大会等で自慢の「屋台メシ(当紙第3号参照)」を出店したり、茨城県下妻市との交流で親子農業体験ツアーを実施するなどイベントも多い。「歴代の会長や役員が築いてきたものを大切にしたい」という思いで取り組んできた。頼れる役員や協力してくれる町会員のおかげでイベントはいずれも盛況。これまでの勢いは失っていないと自負している。「イベントの開催は大変ですが、皆さんに喜んでもらえるのが本当に嬉しい。参加すると近所に知り合いが増えるし、町会加入のきっかけになることも。しっかり次世代に引き継ぎたい。地域のためです」。



Horinouchi
Harunobu

伊興南町会長

堀之内 晴信

会長に訊け！

歴代の会長や役員の思い
次世代に引き継ぐために

昭和29年生まれ、70歳。趣味は相撲観戦や神社・仏閣巡り。家の周りの草むしりなど、地域での活動も心地良い。「自分の趣味は結局のところ、地域活動かもしれない」。10年前、奥様を亡くして辛かった時も地域の人たちとのつながりに救われた。「趣味、地域活動」の会長のことを、子どもたちや孫たちも応援してくれる。「じいじ」と町会の皆さんが準備をしてくれるお祭りやイベントを喜んでくれることが力になる。

伊興中央町会の「昼間会長」は3人目だ。初代は親戚、第四代は父親。自身は第十代目である。区外に勤める会社員が多忙だったこともあり、町会の役員になったのは20年前、50代の頃だった。支部長から始まり、各部長職、副会長を務め、会長になって1年。伊興中央町会はファミリー向けのイベントが充実している。頻度は3ヶ月に1回。盆踊り大会をはじめ、デイキャンプや餅つきなど季節ごとのイベントを楽しむことができる(当紙第5号参照)。備品として発電機や無線機、ポップコーンを作る機械もある。発電機や無線機はイベント時に使用して、いざという時に備えている。「自分の子どもの頃を思い返すと、地域の行事が印象深い。子どもの頃の楽しい思い出に地域の皆が参加しているって素晴らしいことですね。そういう子ども時代を過ごすことが地域への愛着につながるんだと思う」。



Hiruma
Masaki

伊興中央町会長

昼間 雅樹

子ども時代の思い出を
地域でつくる

昭和27年生まれ、73歳。運動が大好きな生粋のスポーツマン。子どもが生まれる時も野球のユニホーム姿で産院に駆けつけたほどだ。他に熱中したのは、ボウリング(マイシューズとマイボールあり!)、テニス、卓球など。少年野球のコーチも務めた。現在もビーチボールバレーやソフトボールを続けている。日課は毎朝4時30分に起きてストレッチをすること。「地域の皆にいつまでも元気に活動してほしい。まずは自分が実践です」。

生まれは秋田県。奥様の実家がある縁から伊興で暮らし始めた。町会の役員になったのは22年前。青少年対策部長や副会長を務めた。「人は誰かの助けがなければ生きられない。自分の仕事忙しい時に家族を支えてくれた地域の皆さんに恩返ししたい」と思い、会長に就任して1年目。コロナ禍等で中断していた盆踊り大会を復活させた。西新井消防団第六分団部長を務めていることもあり、地域のために必要だと考える防災訓練も行うなど、積極的に事業を展開している。子どもたちの地域活動を支援する第十四地区少年団協議会の役員を務める他、自主防犯ボランティア団体「TIVOLAN(ティーボラン)」の会長として夜間パトロールをするなど伊興エリアで様々な活動に関わる。「多様な世代の人と関わる楽しさが様々な活動につながった。地元の人はもちろん、自分のように他の地域から来た人も住み良い地域にしたい」。



Terui
Tatsumi

伊興仲町会長

照井 辰美

多様な世代の人と関わる
楽しさが活動の力

町会・自治会に加入する3ステップ

※ 自分のエリアの町会・自治会員をご存知の方は直接お申込みください。(都営・区営住宅は入居時にご案内します)

1

加入方法がわからない方は

下記の方法でお申込み

● ネットで 足立区公式サイトへ



ページ内の
足立区オンライン
申請システムに入力

上記QRコードを読みとってください

● 郵送・ファクスで 住所、氏名、電話番号を明記し送付

郵 送	〒120 - 8510 足立区中央本町1-17-1 地域調整課地域調整係宛て
ファクス	03 - 3880 - 5603
問 合 せ	足立区地域調整課 TEL 03-3880-5864

2

該当の町会・自治会から
連絡が来ます

3

加入！

ようこそ！
地域の団結で 安心を！





Magandang hapon

わたしの伊興暮らし

取材
はわとみちいちゃん
原富雄会長1 いこうきたちょうかい
伊興北町会アイエサさんと
ご主人の繁さんアイエサ・マツモトさん（フィリピン）
Ms.Ayeza Matsumoto (Republic of the Philippines)

結婚をきっかけに伊興ぐらしが始まりました。アイエサさんはご主人の友だちの親せき（血のつながりのある人や結婚などで関係のできた人）です。ご主人の一目ぼれの熱さが、フィリピンと日本の遠距離を飛び越え、ご縁をつなぎました。赤ちゃんを産む前はフィリピンにいたお母さんのサポートを受けましたが、夫婦で力を合わせて3人の子どもたちを育てました。子どもたちといっしょに町会の盆踊り大会などに参加したことで家族を気にしてくれる人も増えました。松本家の会話は日本語ですが、メールは英語です。日本語を読むことが、むずかしいお母さんを気にかけてくれる子どもたちの成長がうれしいです。

伊興エリアの防災

毎年、開設訓練を実施！
避難所について

区立の小・中学校や都立高校、一部の大学ごとに地域の町会・自治会で組織された「避難所運営会議」。地震や水害など、いざという時に備えて訓練を実施している。伊興エリア内の避難所は8箇所。

年に一度実施する避難所運営訓練では、避難所の設置・運営をはじめ、初期消火、応急救護、災害対応型トイレの設置（写真①東伊興小・伊興中避難所運営訓練）などの各種訓練や、東京都水道局提供の非常用飲料水のリュック型持ち運び袋の体験（写真②西新井第二小・足立工科高避難所運営訓練）などに取り組んできた。開催日時などの詳細は、掲示板や町会・自治会の回覧板で確認できる。多くの人が参加すれば、より強い安心と備えにつながるはずだ。

ウェルカム、17 伊興北根町会！

河内勝利会長が
紹介！

昨年8月の「納涼子どもまつり & 芸能大会」。紙切り芸をはじめ、第十四中学校吹奏楽部や伊興東町会やんちゃ太鼓の演奏の他、屋台や子どもの遊び場など近隣のつながりを活かした企画で好評を博した



会長がサポートする東伊興小学校の畑。子どもたちの農業体験の準備のため自前の耕運機で作業

「過去を踏襲せず新しい発想を」という河内会長の信条どおり、多彩なイベントを実施。会員同士が顔見知りになることは防犯対策にもつながる。不審な電話を受けた町会員が会長に相談し、区危機管理課や警察署と連携し不審な訪問を回避したことも。会長は「普段からの関係が大切ですよ」。

※伊興英知自治会（伊興町自連未加入）



HOT NEWS

プレイバック！
伊興町自連 2024金子貴会長が
顧みる！

11 伊興町アパート自治会

延べ2000名が参加した「伊興町自連連合大運動会（写真①）」が印象に残る。コロナ等で5年ぶりの開催だったが、町会・自治会、伊興地区対（子どもたちの健全な成長を見守る団体等が集まった組織）と協力して運営し盛況だった。町会・自治会や団体を越えた連携ができるのも普段の関係があるから。様々なイベントで活躍する女性・婦人部長の皆さんが集まる会議（写真②）もその一つ。これからも「チーム伊興」で励んでいきたい。

編集後記 ありがとうございます！
当紙休刊後もチーム伊興の勢いは続く！

「伊興町自連NEWS」は、より多くの皆さんに町会・自治会を身近に感じてほしい気持ちが形になったものだ。創刊時はコロナ禍で、多くの人と顔を合わせる機会が少なくなっていた頃。であれば、全戸配布で届けよう！読んでいただける内容にしよう！と毎号、皆で協力しながら、紙面を作ってきた。多くの町会・自治会員の皆さんが登場してくださった。私たち会長の飾らない本音も記事にした。すると、多くの反響をいただいた。新たに仲間になってくれた皆さんもいる。今号をもって休刊となるが、紙面を通してつながった地域の皆さんとのご縁はこれからも続いていく。また次の場所でお会いしましょう。



会長たちの撮影は伊興区民事務所の会議室を撮影スタジオにして実施（写真上）。デザインはろじゅらデザインの猪又さん（写真下）。足立区シルバー人材センターの皆さんのおかげで伊興エリアの全戸へお届けすることができた

12 伊興町自治会 ヒストリー

豊田紀雄会長が
振り返る！

伊興地区の町会・自治会の始まりは「伊興町自治会」だ。設立した昭和32年当時は、現在の伊興エリアの全域に自治会員がいた。その後、人口増加等の影響で、現在の各町会・自治会に分離した。自慢は2つ。1つは、かつては盆踊り大会、現在も子ども向けの企画やご年配の皆さんが集うお花見大会などの会場として親しまれる大境公園。もう1つは、小学生の横断誘導を17年行う近藤宏一さんなど地域を守る人材に恵まれていることだ。



自治会の活動を紹介する新聞や会長直筆のイラスト入りのサンキューレター。会員同士の会話のきっかけになる

私が会長だった頃

取材：屋間雅樹会長

6 伊興町自連相談役 伊興中央町会 元会長（平成17～29年度）
山崎 賢司さん

生まれも育ちも伊興。祖父が若宮八幡神社の総代を務めるなど地域活動に熱心な家庭で育ったため、地域への関心が高く、地域愛が強い。49歳で支部長を務めて以来、総務部長、副会長を歴任し、63歳で町会長に。会長を務めた12年のうち、伊興町自連の連合会長を6年務めた。その間、竹ノ塚駅の高架化工事が始まり、地域の代表として区や鉄道会社との会議にも出席。まちが変わる様子をリアルタイムで体感し積極的に関わったことは貴重な経験になった。現在はご年配の皆さんの事業等を行う「伊興寿会」の会長、足立区の友好自治体や姉妹都市との交流を支援する友好都市交流委員長、若宮八幡神社の総代も務める。「町会長の頃の経験やネットワークが活かしています。ありがたいです」。

監査 豊田会長 監査 海老沼会長 会計 元井会長 会計 河内会長



伊興町自連NEWS編集委員会 伊興町自連役員

2 伊興西町会 3 伊興五丁目アパート自治会 4 伊興四丁目住宅自治会 5 伊興二丁目自治会 7 西新井四丁目自治会 8 西新井四丁目諏訪木町会 9 西新井第三団地自治会 10 伊興南町会 13 伊興町第2アパート自治会 14 伊興三丁目アパート自治会 15 伊興仲町会 16 伊興町前沼アパート自治会 18 伊興東町会 19 狭間町会 20 東伊興町会